

令和2年度 国立中央青少年交流の家

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」

地域探究アワード 全国ステージ 参加報告書

令和3年2月14日(日)



【全国ステージ オンラインで開催】

去る令和3年2月14日、全国ステージが開催された。全国ステージは当初、東京都にある国立オリンピック記念青少年総合センターでの開催が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、さらには会場のある東京都に緊急事態宣言が発令されていた状況を踏まえ、今回はオンラインでの開催となった。

【中央青少年交流の家からは3名が参加】

中央青少年交流の家で行われたオリエンテーション合宿『take the first step』に参加し、その後の実践活動および報告書作成を経て、地域探究アワード地方ステージにエントリーしたのは4名(個人部門2名、グループ部門2名1組)。地方ステージは12月に開催され、その中の3名(個人1名、グループ2名)が、見事『関東・甲信越地方ブロック』の代表として、全国ステージへの参加資格を得て、今回の全国ステージに出場した。

【個人部門】

芹澤愛香 ※敬称略

すそのアトラクションウォーキング

～ゴミ拾いをしながら、

裾野市中央公園へ探検に行こう!～



【グループ部門】

伊藤歩南・山本柚寿 ※敬称略

イコノバ!

～沼津仲見世商店街活性化プロジェクト～



【全国ステージ評価結果 全国1位、2位の評価を受ける!】

出場した3名とも、堂々とした態度でプレゼンを行った。また、評価委員からの質問に対してもわかりやすく、かつさわやかに回答し、たくさんの評価委員から実践活動・プレゼンともに高い評価を受けた。

その結果、

個人部門で出場した芹澤さんは『文部科学大臣賞(全国1位)』、

グループ部門の伊藤さん、山本さんは『国立青少年教育振興機構理事長賞(全国2位)』

にそれぞれ選ばれた。

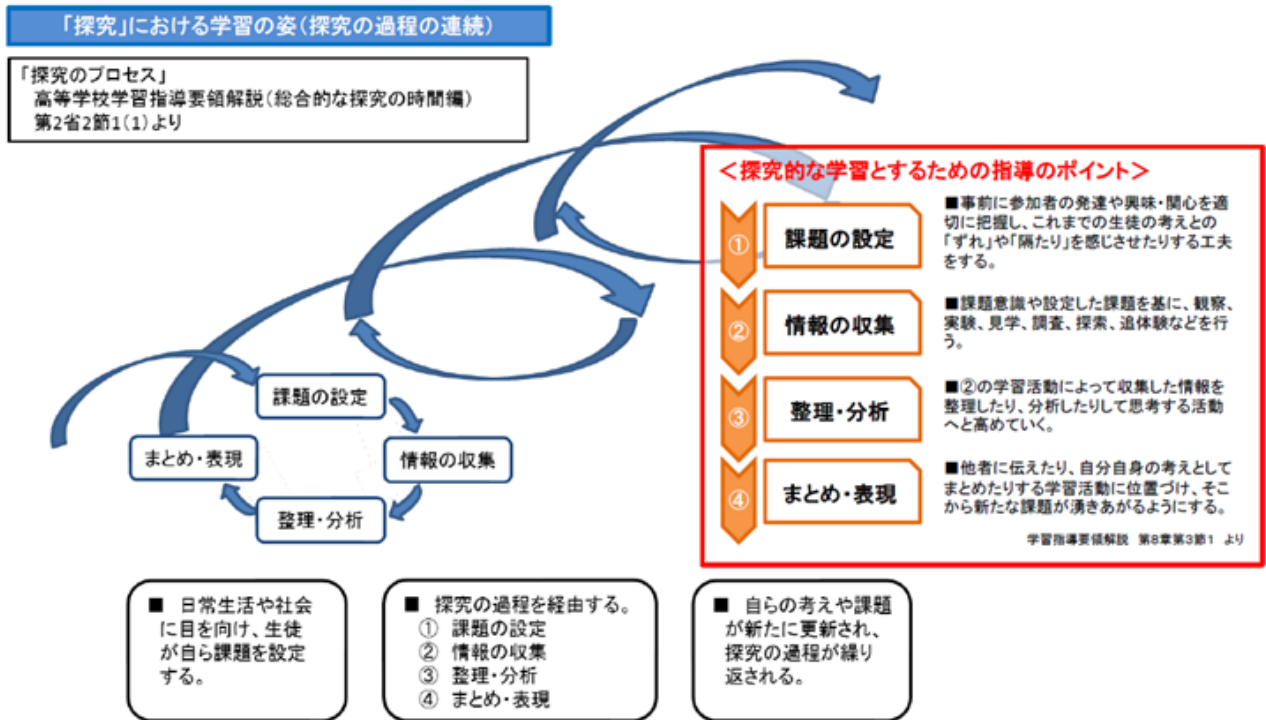
【まとめ】

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、特に実践活動を行うには難しい環境であった。それだけに、各関係者と何度も調整を行うなど試行錯誤をしながら新たな価値を創造した参加者には、大きな気づきや学びがあったようであった。参加者たちが、今回の学びを今後生かして更に活躍していくことを祈念しつつ、引き続き多くの高校生に貴重な学びの機会を提供できるよう、多くの関係者と連携をとってブラッシュアップを図っていきたい。

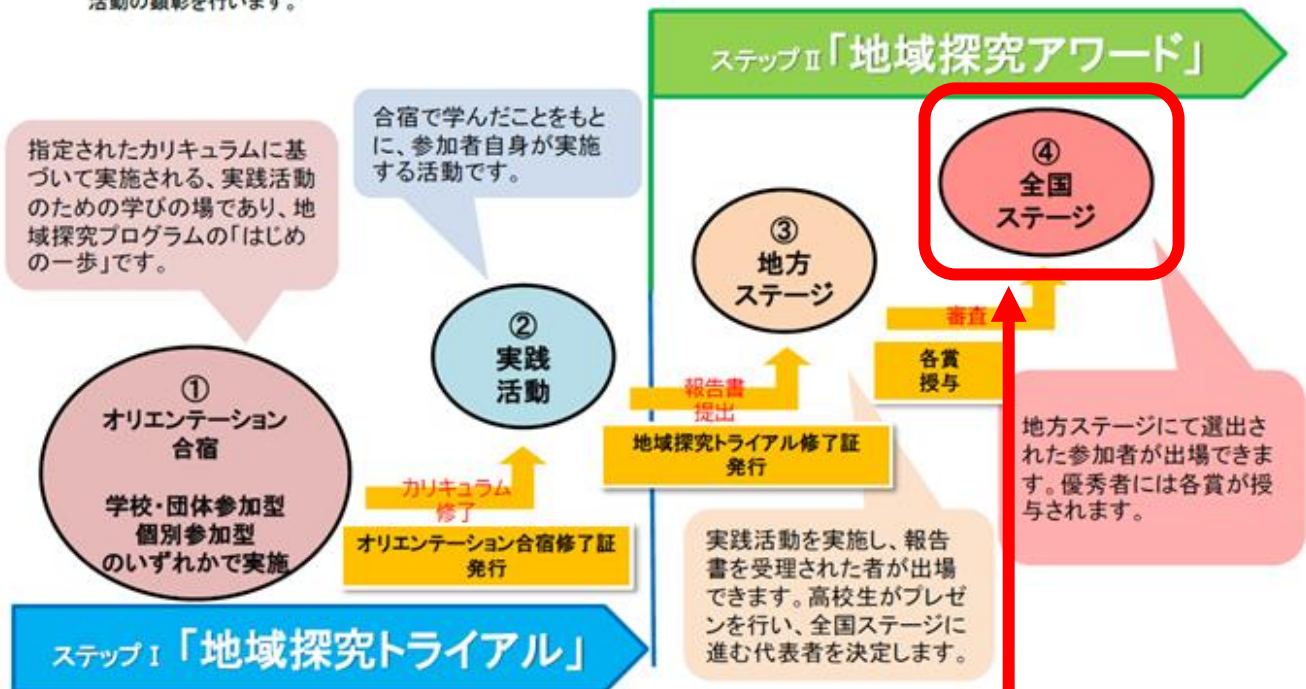


参考 全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」の概要

地域探究プログラムでは、今回の学習指導要領の改訂に伴って名称が変わった「総合的な探究の時間」における「探究」の手法を取り入れています。



「地域探究プログラム」は、高校生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度です。取組みを段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」とステップⅡ「地域探究アワード」から構成しています。「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そして「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行います。



※定点の評価を設けることで、個々人の状況や進捗に応じた評価ができる仕組みとしています。

今回の「地域探究アワード 全国ステージ」は、この部分に該当します